

平成28年度 大気環境調査事業報告書



埼玉県のマスコット「コバトン」

有害大気汚染物質モニタリング調査結果
炭化水素類組成調査結果
石綿大気モニタリング調査結果
ダイオキシン類大気常時監視結果
酸性雨調査結果
地球環境モニタリング調査結果

平成30年2月

彩の国  埼玉県

目 次

有害大気汚染物質モニタリング調査結果	1
執筆：大気環境課・環境科学国際センター	
炭化水素類組成調査結果	3 7
執筆：大気環境課・環境科学国際センター	
石綿大気モニタリング調査結果	5 9
執筆：大気環境課	
ダイオキシン類大気常時監視結果	6 1
執筆：大気環境課	
酸性雨調査結果	6 3
執筆：大気環境課・環境科学国際センター	
地球環境モニタリング調査結果	7 7
執筆：大気環境課・環境科学国際センター	

「平成28年度 大気環境調査事業報告書」の概要

有害大気汚染物質モニタリング調査結果

有害大気汚染物質のうち環境基準が設定されている4物質（ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン）とも、全ての地点で環境基準を達成した。

有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値（指針値）が設定されている9物質（アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、水銀及びその化合物、ニッケル化合物、ヒ素及びその化合物、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン、マンガン及びその化合物）についても、全ての地点で指針値を下回っていた。

炭化水素類組成調査結果

総炭化水素濃度は、前年度と比べて横ばいもしくは減少した。長期的には減少傾向あるいは横ばい傾向となっている。

調査対象とした炭化水素成分のうち、オゾン生成に大きく寄与したのは、芳香族、オレフィン類、アルデヒド類であった。

石綿大気モニタリング調査結果

調査地点（20地点）における総繊維濃度は、0.31～1.1本/ℓの範囲であった。平均値が1本/ℓを超えた地点については、検体を再調査したが石綿繊維は確認されなかった。

全ての調査地点で、大気汚染防止法で定める石綿製品製造事業所の敷地境界基準（10本/ℓ）を大幅に下回る値であった。

ダイオキシン類大気常時監視結果

調査地点（23地点）における年間平均値は、0.0064～0.061pg-TEQ/m³の範囲であった。

全ての地点で環境基準（年間平均値：0.6pg-TEQ/m³以下）及び埼玉県ダイオキシン類削減推進行動計画に掲げた目標値（年間平均値：0.3pg-TEQ/m³以下）を達成した。

酸性雨調査結果

降水の経年変化は、pHは中性側へ上昇傾向、その他のイオン成分濃度は横ばいあるいは減少傾向である。

粒子状物質、ガス状物質濃度の経年変化は、横ばいから減少傾向である。

地球環境モニタリング調査結果

フロン類の長期的傾向については、CFCは横ばい傾向、HCFC、HFCは増加傾向である。

1,1,1-トリクロロエタンは減少傾向、四塩化炭素は横ばい傾向である。また、一酸化二窒素は増加傾向である。